

# 平成30年

## 委託事業所における労働災害発生状況

当協会に労働保険事務を委託している事業所における、平成30年1月～12月までの労働災害の発生状況がまとまりました。

全体の発生件数は63件であり、その内、業務災害は58件（うち特別加入者5件）、通勤災害は5件でした。前年比でみると5件の減少ですが、各事業所においては手綱を緩めず安全管理に関して一層のご努力をお願いしたいと思います。

減少の背景としては、いわき地区における大震災からの復興に伴う産業・経済活動が徐々に縮小傾向に転じつつあることも影響していると考えられます。

以下、災害の内容について分析した結果は、図1～図6のとおりです。

① 業種別発生件数では、商業・サービス業が28件（44.4%）と全体の半分弱を占め、次いで製造業18件、運輸業8件、建設業3件の順で多く発生しています。

商業・サービス業が前年に引続き1位で、第3次産業での災害多発傾向が続いています。

② 建設・運輸・林業などの屋外型産業では、墜落・転落、激突・飛び降りや飛来・落下による災害が目立ちました。特に、トラックの荷台やステップなどからの転落事故が多く見受けられました。

③ 製造業では、食料品製造業での発生が8件（44.4%）と半分弱を占め、次いで機械・金属製品製造業7件、木材・木製品製造業2件という状況になっています。

また、機械（コンベアやプレス機械など）に巻き込まれる事故、ボール盤やミキサーなどに接触しての切れ・こすれ災害も多く発生しています。

④ 年代別では、労働力の高齢化が進んでいる結果、60歳代以上の件数が24件と全体の38.1%を占めており、筋力や反射神経の低下を考慮した作業方法を工夫するほかに、腰痛予防のために重量物を取り扱う際の負担軽減策を講ずる必要があります。

⑤ 災害の規模をみると、災害全体に占める休業4日以上災害の割合は、平成30年は49.2%で、前年とほぼ同様な状況にあります。

⑥ 昨年は医療現場での針刺し事故が2件発生しており、感染症の発生が危惧される事故であることから注射器や注射針の扱いに十分気を配りたいものです。

災害の概略は以上ですが、転倒災害が9件と多発していることから、整理整頓に努めるほか、冬場の安全通路を確保し、滑りにくい靴の着用などの対策が必要と考えられます。ご安全に！

